



赤十字国際ニュース

日本赤十字社 事業局 国際部

〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3

電話 : 03-3437-7087

FAX : 03-3435-8509

E-mail : kokusai@jrc.or.jp

URL : <http://www.jrc.or.jp/>

2008年 第61号 2008年 12月 12日

(通巻 第719号)

ミャンマーサイクロン復興支援：エヤワディ川の風②

死者行方不明者 13 万人以上、被災者 240 万人という、大きな被害をもたらしたサイクロン・ナルギス。ミャンマー赤十字社は、国際赤十字、そして約 3,000 人のボランティアとともに、現在復興支援活動を行っています。災害発生当初、被災地のエヤワディ管区に外国の支援が入ることは難しく、川が入り組んだ村落部のアクセスの悪さがこれに加わり、緊急救援の実施は困難を極めました。そのような中、ミャンマー赤十字社のボランティアが救援の最前線に立ち、現在も約 3,000 人のボランティアが復興支援活動に力を注いでいます。

復興支援では、高潮・高波で奪われてしまった生計手段を取り戻す「生計再建」、保健衛生、シェルター、防災対策など、被災前の生活を取り戻し、将来の災害に備えていくさまざまな事業が始まっています。

本号では前号に引き続き、国際赤十字チームの一員として保健衛生分野の復興支援活動に従事する、吉田千有紀看護師（日本赤十字社和歌山医療センター）からの現地報告第 2 弾をお伝えします。

■根気よく私たちの活動を続けよう —ラプタの赤十字ボランティアたち—

エヤワディ管区にあるラプタという所は、海岸線に近いところにあります。川幅も広く、流れも速いので、エンジン付の中型船で移動します。このラプタは、最も大きな被害を受けたところのひとつで、川沿いにある集落は壊滅し、多くの住民がここで命を失いました。

船で 3 時間、カンベット村に到着。カンベット村は、サイクロンの被害を受けた 1,200 世帯の人々が 10 の集落に分かれて生活している比較的大きな村です。この村には 3 つの小学校と一つの中学校があり、どの校舎も半壊し、その一部の補修をミャンマー赤十字社が行っています。

ミャンマー赤十字社の保健ボランティアが活動する村の小学校で健康教育教室が開催されました。私たちは、子どもたちへの健康教育の一環として、手洗いや歯磨き、うがいの大切さ、食物の管理方法についての教育計画を立ててきました。その計画の最初の実施地域が、ここラプタです。赤十字ラプタ支部のサンサン・マウさんはその中心的な役割を果たしています。彼女は



衛生用品の贈呈式（右端サンサン・マウさん）
©IFRC

ミャンマー赤十字の HIV・エイズ事業の現地管理者や赤十字ボランティアとして、長年地域に貢献された方です。

小学校に到着すると、校長先生はじめ、職員の皆さん、子どもたちが笑顔で迎えてくれました。小学校 1 年から 5 年までの子どもたちが一緒に勉強しています。校舎は決して立派とはいえず、天井や壁は穴が開いた状態です。教育省が学校再建に向けて建物の改築を進めていますが、末端まで届くには、時間がかかる気配です。

この日のために、子どもたちは簡単な詩を歌にして、踊りとともに私たちに披露してくれました。子どもたちはこう歌います。「食事の前には手を洗いましょう。トイレの後も手を洗いましょう。食べ残しはよくありません、お皿もきちんと洗いましょう、お掃除できれば、ハエさんとバイバイ…」なんとも微笑ましい光景を見て、これから始まる 500 の小学校での赤十字健康教育活動への未来予想図が少しずつ見えてきた気がしました。

「力を合わせて、根気よく活動が続けようね」赤十字ボランティアの皆さんと誓い合うとともに、具体的な実施計画の策定を進めています。



はみがき教室 ◯IFRC

■赤十字の未来予想図

先日、国際赤十字は 10 万世帯に対する 3 年間のサイクロン中長期復興支援計画を発表しました。保健部門は「災害に強く健康的な地域づくりを地域住民の人々と共に進める」ことを目標に、事業計画が立案されています。水・衛生部門では、飲料水不足が深刻なため、給水タンクを設置し、6 千世帯に対する飲料水の供給を続けています。保健衛生ボランティアは飲料水の供給場所で適切な飲料水の保管方法等について指導を行います。また、5 万世帯で使用する生活用水のための貯水池整備や清掃も住民とともに進めています。

また保健部門では、赤十字支部のある 9 つの地域で地域保健救急法指導員を 150 名養成し、現在 1,350 人の赤十字保健ボランティアに対して研修を実施しています。この赤十字保健ボランティアは「赤十字ボランティアとして活動したい」という強い意志のある住民を集めています。年齢層も職業も様々ですが、皆さん大変熱心に研修に参加しています。

水・衛生状態の改善とともに、これから雨季に流行するマラリア、蔓延する結核対策、予防接種活動にも力を入れ、蚊帳の適正指導と配布、地域助産師の行う予防接種活動などの支援を展開する予定です。そして、赤十字ボランティアの活動の拠点となる赤十字コミュニティポストを 100 ヶ所設置し、保健部門のみならず、生計支援、水・衛生、シェルター部門の活動拠点として活用される計画を立てています。

2009 年に向け、赤十字ボランティアを乗せた小船は、追い風を受けながら、着実に



ボランティア対象の応急処置トレーニング
◯IFRC

進んでいきます。そして私たちは、地域の人々に着実に届く支援を目指していきたくと考えています。

第34回国際救援・開発協力要員基礎研修会（BTC）を開催します

日本赤十字社では国際救援・開発協力要員として、世界の各地で活躍する資格・能力を有する人材を確保するため、ジュネーブの赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟より講師を招き、国際救援・開発協力要員基礎研修会を実施します。参加を希望される方は、平成20年12月15日（月）までにお申し込みください。

日時：平成21年1月31日（土）～2月5日（木）13:00

場所：アソシエート熊本県阿蘇郡阿蘇村河陽 4369-19

(<http://we.magma.jp/~asociate/>)

お問い合わせ：国際部企画課 03(3437)7087

関連HP：http://www.jrc.or.jp/kokusai/news/14/Vcms4_00000939.html



海外たすけあい 義援金募集

2008.12.1(日) ▶ 25(木)

世界のさまざまな紛争、災害、病気等で苦しむ人々のために、人道的な支援を行っています。多くの皆さまからのご支援・ご協力をお願いいたします。

<http://www.jrc-kaigai08.jp/>